



令和6年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【中央地区】

令和7年3月31日現在

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	子育てマップ作成委員会	子育てマップ作成事業	中央地区は核家族で子育てをする世帯や転居してくる世帯が多く、子育て中の保護者が子育てで不安にならないよう、身近な地域の子育てに役立つ生活情報が必要である。そのため、平成25年度、26年度(改訂版)に地域の子育てに役立つ情報を掲載した子育てマップを作成し、公共施設での配架や保健師等による「こんにちは赤ちゃん事業」等で配布を行ってきた。その後、10年が経過し掲載内容の変化や、様々な情報のデジタル化の動きもあり、改訂版の作成が必要となった。	子育て中の保護者が子育てで不安にならないよう、身近な地域の子育てに役立つ生活情報を掲載した子育てマップを作成すると共に、地区社会福祉協議会と連携して三世代交流事業等で活用することで、子育て家庭への支援を行う。また、持ち運びし易い大ききで作成し、QRコードで常に最新情報が入手出来るように改訂することで、安心して子育てが出来る情報を提供する。	・子育てマップを作成し、各家庭に配布する。 ・子育てマップを作成後、中央地区っていいなフェアの場において展示を行うほか、中央地区社協の三世代交流事業や子育てサロン等の場において活用する。 ・掲載情報 民生委員・児童委員と主任児童委員の紹介、子育ての身近な相談窓口、親子で参加できる事業、保育園等、医療機関や救急窓口、公園の写真やおすすめポイント等 ・配布対象 0歳児～未就学児の子育て家庭 ・作成部数 1万部 ・配布場所 富士見こどもセンター、弥栄児童館、保育園や幼稚園、公民館、民生委員・児童委員、主任児童委員、保健師、医療機関等	R6.10.3	380,000	380,000	380,000
2	中央地区防災フェスタ実行委員会	中央地区防災フェスタ	令和4年度の中央地区まちづくりを考える懇談会にて、中央地区は他地区と比べて災害リスクが少ないため住民の防災意識が低いこと、自治会加入率の低さから災害時の「共助」が十分に機能するか懸念があることが課題として示され、その課題解決のために令和5年度に中央地区防災フェスタを開催した。 今年度については昨年度と内容は変更し、引き続き誰でも参加できる防災について楽しく学べる機会を設けることで、住民の防災意識の向上を図る。	誰でも参加できる防災について楽しく学べる場を設けることで、災害時の備えとなる平時からの住民の防災意識の向上と災害時の共助の大切さを知り減災につなげること、自治会加入促進による地域の防災の担い手の確保を目的とする。	開催日時: 令和7年2月9日(日)午前10時から午後1時まで ・起震車体験やお年寄りの避難介助等の体験ブース ・防災に関する人形劇や紙芝居の公演、講演会 ・アルファ化米の実食 ほか	R6.10.3	420,000	420,000	350,000
3	中央地区まちづくり防災プロジェクト委員会	中央地区防災ガイド作成事業	近年は地震、台風、大雨等の災害が頻発し、防災に対する関心は高まっている。中央地区でも東日本大震災をきっかけに意識が高まり、地域の防災組織や一時避難場所・避難所について知らない人が多いことから平成25年度に中央地区防災ガイドを作成し、配布やイベントでの活用等で啓発を行ってきた。 しかしながら、作成から10年以上が経過したことで内容に齟齬が生じたり、時代に合わなくなっている。また、令和4年度のまちづくり懇談会では防災をテーマとし、令和5年度には中央地区防災フェスタを実施するなど現在も地区として防災に対する意識は高い。加えて「令和6年能登半島地震」が発生したことにより、更にその機運が高まっていることから、現在の防災ガイドを改訂し啓発活動を継続していくもの。	住んでいる地域の防災組織や避難場所等の身近な情報の他に、災害への備えとして必要な内容を掲載し、住民が災害に備えて対策を行う際の一助とする。また、地域防災活動の大切さや重要性について、意識の向上を図ることを目的とする。	○中央地区に特化した防災ガイドを作成する 【掲載内容】 ・地震に対する備え ・非常時の持ち出し品 ・中央地区の防災施設、一時避難場所等を記載したマップ など ○作成した防災ガイドは各家庭に配布するほかに、自治会加入促進の活動や防災フェスタ等のイベント、公民館の高齢者学級(悠々学級)等の地域の講座で活用する。	R7.12.4	600,000	600,000	592,000
							1,400,000	1,400,000	1,322,000